


# 北陸大学ライブラリーセンター報

Bulletin NO.29

⇒ をクリックすると本文がご覧になれます。

⇒ 読書のすすめ

八木 健太郎  
(国際交流センター准教授)

利用学生の  声

⇒ SciFinder

栗原 梨奈  
(薬学部 薬学研究科大学院 博士前期課程)

⇒ 図書館の利用促進

東 優有  
(薬学部 薬学科 4年次生)

⇒ ライブラリーセンターについて

辰巳 敦子  
(未来創造学部 未来文化創造学科 平成21年度卒業生)

⇒ 賢人たちの饗宴

ヨウ オン ウ  
楊 恩 宇  
(未来創造学部 未来文化創造学科 3年次生)

⇒ ライブラリーセンター本館に 読書コーナー新設

⇒ 読書コメント大賞表彰

⇒ 寄贈図書

⇒ 目次

# HOKURIKU UNIVERSITY LIBRARY CENTER

北陸大学ライブラリーセンター報



## 読書のすすめ

国際交流センター准教授 八木 健太郎



「最近、知り合いから本当に興味深い話を聞いたよ」という人は、どのぐらいいるのだろうか。その知り合い自身が心から面白いと思ひ、それをあなたにも共感できる内容だと判断し、その話の面白さを損なわないような効果的な語り口で伝える。あなたは語り口にテンションを合わせ、内容を理解し、そして共感する。けっこう、大変な過程だと思う。

残念ながら、私自身は、最近そのような経験をしていない。

いや、私の隣に座っているY先生はホントに話し上手だ。ユーモアもある。Y先生が学生数人と飲みに行き酔っ払い、気前良く57,437円も払って奥さんに怒られた話（決してヘンな店ではない）や、0歳のお子さんに、「早期の水泳教育」と称してお風呂でお湯をかけていて、また奥さんに怒られた話（いつも怒られている）など、げらげら笑わせて頂いている。

しかし、それらは瞬間性の面白さだ。「へー、なるほど！」と深く頷き、じわじわと自分に沁み込んでくるような感覚でそれを理解し、その後、自分自身がどこかしら今までとは異なっているような思いにとられる、そんな面白さを味わうという経験は、最近、あまりしていないように思える。

勿論、Y先生への不満ではない。周りの人の話が面白くないと、我が身を省みずに駄々をこねているのではない。日常会話なんて、そんなもんだ。というよりも、日常会話では、みんな、それほどに疲れる経験をしたくないと思っていないのだろう。

しかし、私は面白い話を聞くことに食欲だ。面白い話に飢えていると言ってもいいだろう。Y先生の小啣という絶品のデザートを頂きながら、それでもやはり、私はメインディッシュがほしくなる。

本だ。

私の好みの本は、もう比喩とは考えられないほどに実感をともなって、私の「飢え」を満たしてくれる。ラインホルト・メスナーのエベレスト登頂記は、あっさりとした語り口で常人では伺い知ることのできない境地を味わわせてくれる。エドゥワルド・ガレアノのサッカーについてのエッセイ集は、まさにスパイシーだ。ジョイスは流石になかなか手が出ないけれど、柳瀬尚紀でなら楽しめる。和物では、高村薫や横山秀夫の小説も好きだ。どれも、その書き手が長い間かけて熟成した深遠な思考や研ぎ澄まされた皮膚感覚が、濃密な味わいに凝縮されている。内容の深みが、私のような凡人にも共感しうる塩梅に、入念に、あるいは大胆に整えられ、私へと沁み入ってくる。気軽に手にすることができるものもあれば、咀嚼しにくいものもある。

図書館はいい。その時の自分の気分やコンディションに最適な逸品を、山のような候補の中から選び放題だ。人はおしゃべりのみにて生きるにあらず、そんな風に思う。

# 利用学生の声

## SciFinder

薬学部 薬学研究科大学院 博士前期課程 栗原 梨奈



現在、私の研究室では有機ELなどに利用できる発光特性を持つ機能性分子の創製を目指して日々研究に取り組んでいます。今日、この分野は機能性有機分子に関する研究領域で最もホットな話題の一つとなっており、基礎研究から応用研究に至るまで非常に活発に研究されています。そこで、私は私の取り組んでいる研究分野に関して、どのような研究がどこまで進められているか、そして今後の研究の動向はどのようなものかを知るため、常に最新の論文に目を通す必要があります。SciFinderはフレーズや文章を入力することで、膨大な情報の中から研究分野に関連する情報を容易に入手することができます。また、化合物の構造式を入力すれば、その化合物の合成法をはじめ、その化合物を用いて行う反応、スペクトルデータや関連する文献など、多くの情報がすばやく入手できます。そして、研究分野の動向を知ることにより、今後の研究の方針を決定し実施する上で非常に役立っています。また、まだ製本されていない段階の論文も閲覧することができますので、常に最新の情報を入手することが可能となっています。

SciFinderで有用そうな文献を見つけた場合、ダウンロードできない文献は図書館に探しに行くことになります。しかし、欲しい文献が図書館にないことも多々あり、その時は外部の機関に文献請求しなくてはなりません。図書館からオンラインで申し込んでくれるので、早い時には次の日に文献が届き、とても助かっています。

また、私達の研究室ではアンチモン、ビスマス化合物の有機合成試薬として利用する研究ばかりでなく、その生理作用に関する研究にも共同研究の形式で取り組んでいます。この分野の研究例は少なく、関連する文献を大学の蔵書の中から探し出すのはとても困難です。しかしSciFinderを使えば、そのような分野の文献も容易に検索することができ、非常に役立っています。

21世紀になって早、10年が過ぎました。この間の学術論文の発表数は級数的に増大し、もはやその全てを冊子として一施設で保存し、その情報を提供することは不可能になりつつあります。この問題の解決策として今日、電子図書のシステムが考案され、広く社会に受け入れられるようになりました。現在本学に導入されているSciFinderは、その一つであり、本学の研究活動のみならず、科学技術立国を目指す日本の発展に大きく寄与するものと考えています。

## 平成22年度学術資料委員紹介

小林 忠雄	学術資料部長、読書感想文審査委員	未来創造学部教授
渡辺 和人	紀要編集委員長	薬学部教授
山崎 博久	学術資料委員会副委員長、紀要編集委員	未来創造学部教授
鍛冶 聡	読書感想文審査委員長	薬学部准教授
一ノ木 進	読書感想文審査委員	教育能力開発センター准教授
小南 浩一	紀要編集委員	教育能力開発センター准教授
八木健太郎	紀要編集委員、読書感想文審査委員	国際交流センター准教授

## 図書館の利用促進

薬学部 薬学科 4年次生 東 優有



私は、この一年間、試験勉強時だけでなく普段からよく図書館を利用するようになりました。

3階には、パソコンスペースと奥の勉強スペースがあり、適度な緊張感を持って勉強に臨める雰囲気です。私は、いつもパソコンスペースで勉強していますが、パソコンスペースにも奥の勉強スペースにも多くの友人や他の学年の人が勉強しており、みんなが勉強している様子を目の当たりにすると自分も頑張れます。そして、青本もコピー機のすぐそばに置いてあるため、すぐに資料が使えてとても便利で毎日多くの人利用しています。

また、3階には中央に、ソファや観葉植物がある心地の良い空間が確保されており、新聞や図書館の専門書などを読むことができます。勉強に疲れたり、集中力が途切れたときには、そこでリラックスマするのにも良いと思います。私も、よくこのソファで癒されています。そして、休んだあとにはまた勉強に集中することができます。そうやって図書館で過ごすことは、時間を有効に、そして充実して使えてとても自分のためになり、良いのではないかと思います。

私が下級年次のときは、図書館には先輩方ばかりたくさんいて利用しにくいと思って腰が引けていましたが、それは勝手な印象で、実際はとても利用しやすいオープンな雰囲気であることがわかりました。もっと下級年次のうちから利用すれば良かったと後悔しています。だから、下級年次の人にももっと、どんどん図書館を利用してもらいたいと思います。

4階には、大きな机とカウンター型の机と一人用の机があります。とても静かで緊張感が高く、集中力も高まり、大変勉強がはかどります。静かなところで集中したい人にオススメです。ここでも、毎日多くの人勉強しており、ここで勉強することは、とても良い刺激になります。勉強が辛くなくても、周りに集中して必死に勉強している人がたくさんいるので、周りを見ると自分ひとりではないことを実感でき、くじけることなく頑張れます。そして、その空気が適度な焦りも与えてくれるため、やる気に拍車がかかり、勉強がはかどります。3階とは違った雰囲気ですが、こちらもほんとうに勉強に最適な場所だと思います。図書館は、内装が木でできているため大変温か味がある空間で、それだけで勉強で疲れた私たちを癒してくれる効果があります。

様々な人がいるところで勉強することは、交友関係を広げることにもつながると思います。初めは仲良くななくても、いつも近くで勉強しているうちに、挨拶はもちろん、情報交換をしあったり、わからないところを教えあったりするようになることもあるのではないのでしょうか。そうやって、助け合って、支えあって勉強していくことが、回りの友達を見ていて、とても大切なんだと思いました。下級年次の人は、あまり実感が沸かないかも知れませんが、学年が上がりCBTの勉強など、継続して勉強しなければならないようになればなるほど、みんながいるから頑張っていけるんだと思います。私は、一人では途中でくじけてしまい、継続して勉強などできません。なので、みんなにチカラをもらえる図書館をいつも利用しています。もちろん、これからも図書館を利用して勉強していきたいと思っています。だから、私のようにくじけてしまう人には特に、もっと図書館を利用してもらいたいと思います。

## ライブラリーセンターについて

未来創造学部 未来文化創造学科 平成21年度卒業生 辰巳 敦子



大学入学後、初めてライブラリーセンターに行った時、それまで私が好んで読んでいた娯楽小説の類が見当たらず、代わりに膨大な数の研究書、専門書、新書や古典文学などが並んでいるのには驚愕したのを覚えている。図書館に行くことは元々好きだったが、それらの難解そうな本を目の前にして、私はライブラリーセンターに行っても時間を持て余すようになってしまっていた。しかし、大学において広く文化的、社会的なテーマを扱う講義を受けているうちに、徐々にそのような事柄にも興味が湧き始めると、今度はこの場所が知識の宝庫として私の目に映るようになった。それ以降、私は授業の空き時間、放課後を利用してライブラリーセンターに毎日のように通っている。

大学の講義と本は切っても切れないくらい強い繋がりがあるものであり、相互に作用して絶大な効果をもたらすものである。先生の教えてくださったことはそのテーマが凝縮されたものに過ぎない。自分の興味を持った事柄をさらに追究し、自らが進んで学んでいくことが大学生の勉強のあり方であり、また自分の知識として得ることができると思う。その点において、大学のライブラリーセンターはなくてはならない存在である。また、ライブラリーセンター内には様々な部類の本があり、色々調べているうちに自分の興味のあるテーマから派生して新たなテーマ、さらに広範な分野への関心が生まれる。ライブラリーセンターにはそういう面白さがある。ところで、私のお勧めは岩波などの新書類（太陽が丘ライブラリーセンターでは2階にスペースが設けられている）である。200ページ前後と薄く、短時間で読むことができ、テーマは政治、経済から、言語や哲学・思想、芸術に及ぶまで広く展開されている。一般の読者を対象としているので比較的内容の理解はしやすい。私は通学時の読み物として、必ず一冊は持ち歩くようにしている。

現在、ライブラリーセンターでは様々な催し物を行っており、館内が活気づいていると思う。なかでも読書コメント大賞は画期的な企画で、私も学生の書いたそれらのコメントを参考にしながら本を読んでもみることがある。また読書感想文コンクールに応募した学生たちの読んだ本もライブラリーセンター内の一画にディスプレイされている。最近の学生はどんな本を読んでいるのかを知る傾向として、学生よりの視点から読書を喚起する良い取り組みだと感じている。

大学生は自分の自由になる時間がたくさんある時期である。読書をするという行為を習慣として取り入れることができるならば、各々の大学生活はもっと有意義なものになると思う。多量の読書によって教養を深めること、多様な世界を知り、多様な価値観を持つことは、豊かな人間性を育むことにも、また人や社会をよりよく理解していくうえでも大変役立つことではないだろうかとは私は考えている。ライブラリーセンターのような素晴らしい環境を学生はどんどん利用して、大学での学びをより充実させてみてはどうだろうか。

## 賢人たちの饗宴

未来創造学部 未来文化創造学科 3年次生 楊 恩宇



静寂な、緩やかな、若干の神秘的な空気を帯びている——図書館に対してこう印象を持つかもしれない。しかし私の目に映る図書館は、非常に賑やかな場所である。もちろん、図書館はいつも寂しいほど静かだ。誰も大きな声で喋ったり喧嘩したりしない。賑やかというのは、思想と情報が激しくぶつかり合うという意味においてである。

「一冊のよい本を読むと、数多の高尚な人たちとの対話の如く」と、哲学者Descartesは言ったことがある。ならば、図書館は賢人たちの集会所であろう。彼らは目を瞑って本棚の中に眠っているが、私が一声かければ、その精神、人生、社会の話が始める。そして本の前の私たちの空白の頭に、新しい知識がどんどん入ってくるのだ。本を閉じたとき知識で頭を満載にすることができる。その嬉しさはお金では代えられない価値がある。

人生は経験に基づいて成り立つものだと思う。しかし人生はゲームのように便利なセーブとロードができない。一度失敗したら二度とはやり直せない。無論、失敗から貴重な経験をもらうことができる。しかし、その経験を本からも貰うことができるのだ。少なくとも人生という道の落とし穴を予測し、失敗から逃れることができるのである。

「勉強せよ、たとえ中国に行こうとも」と預言者モハメッドは言った。中国でも「生きている限り、絶えず学ぶべきだ」というような諺がある。かつて、賢人たちは世界中のあちこちに隠れていた。しかし私たちの時代では、賢人たちの魂はすでに神秘のベールを外し、一冊一冊の本の中に宿り、私たちの訪れを待っている。この集会所では、見えない論争が毎日繰り返されている。もちろん、主役は賢人たちではなく、私たちだ。賢人たちの教えを継承し、世界の本質を探求し、物事の真理を探し出す。無論、私たちは一生を尽くしてもこの膨大な宇宙の果てを触ることができないかもしれない。しかし、私たちは私たちなりの力を、できる限り出すことだけで十分ではないだろうか。そのためには本が必要である。いずれ私たちも老いて、未知の暗闇を迎える日がやってくる。そのときには、私たちの経験を後世に伝えることができるならば、どれだけ幸せだろうか。

「春の日や、あの世この世と馬車を駆り」とは中村苑子という俳人の句だ。いつか私も激しい競争の世界に入るに違いない。その時の私に、本を読むゆとりがあるだろうか。そう考えるたびにいつも哀しい思いをする。しかしそれ故に、私は今の時間を大切にしなければならない。青春は短い。だから、本を読まなければならないと強く思うのだ。

私は再びこの静かな聖地に来て、窓側の席に腰を下ろす。本をテーブルに置く。このときの私は、この上ない幸せを感じるのである。



ライブラリーセンター本館に

読書コーナー新設

本学における「読書」推進教育の一環として、昨年8月下旬にライブラリーセンター本館1階に読書コーナーを新設しました。学生の皆さんが「本を読む」スペースを増やすことによって、本を手にする機会を増やし、より一層本に親しんでほしいと考えています。

読書コーナーには、読書感想文コンクールや読書コメント大賞に応募された本や利用が多かった本（ベストリーダー）などを展示してあります。「読書」と言われてもどんな本を読んでもいいかわからない、という時には、このコーナーの本が参考になると思います。普通の書架では本の背しか見えませんが、ここでは表紙が見えるようにしてあります。本の表紙もデザイナーの方が工夫を凝らして創作したものです。眺めているだけでも何か面白い発見があるかもしれません。皆さんのお気に入りの場所の一つに加えてみてはいかがでしょうか。

昨年11月・12月には、社会派ミステリーの代表作家・松本清張の生誕100年記念として、このコーナーにおいて本学ライブラリーセンター所蔵の松本清張作品58点の展示を行いました。

今年1月からは今年の干支である「トラ」の関係の本、国民読書年に因んだ読書についての本などの企画展示を行いました。

4月からは、本学入学式に講演いただいた茂木健一郎氏の著書コーナー、新入生に薦める本、留学生が日本のポップカルチャーを理解するための本などの展示を行っています。

皆様からの「読書コーナー」の展示や利用について、ご提案やご意見をお寄せください。



読書コーナー



茂木健一郎氏コーナー

# 読書コメント大賞表彰

平成21年度読書コメント大賞年間優秀賞が決定しました。年間優秀賞は次のとおりです。

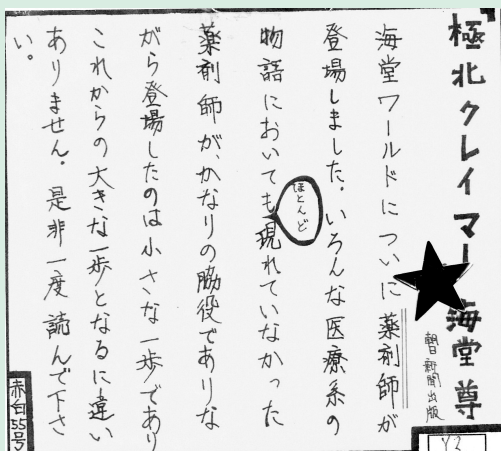
## 年間優秀賞

金賞	該当無し。			
銀賞	『そこに僕はいた』	王 琦	未来創造学部	平成21年度卒業生
銅賞	『極北クレイマー』	中塚 悠二	薬学部	5年次生
〃	『桜の森の満開の下』	呉 倩	未来創造学部	平成21年度卒業生

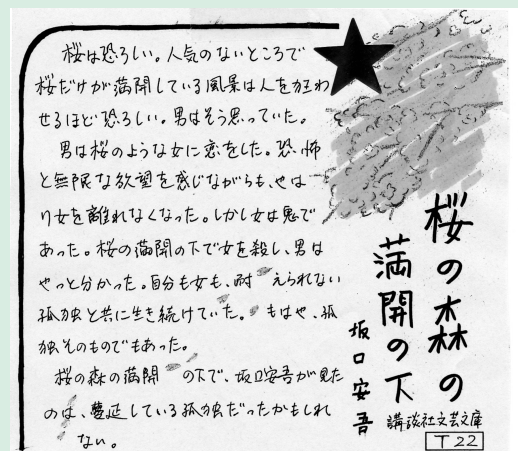
## 年間優秀賞 受賞作品



銀賞 王 琦



銅賞 中塚 悠二



銅賞 呉 倩





## 卒業記念寄贈図書



卒業生から昨年度寄贈された図書は、次のとおりです。

1. DVD	目で見える解剖と生理 第2版	全15巻
2. DVD	病気の成因・病態と治療	全10巻
3. DVD	目で見える医学の基礎 第2版	全13巻
4. DVD	目で見える生化学入門 第2版	全6巻
5. DVD	目で見える臨床検査 第2版	全10巻
6. DVD	わたしたちのからだと健康 第2版	全14巻
7. DVD	生命の科学	全8巻
8. ビデオ	やさしい栄養学の基礎 第2版	全7巻
9. ビデオ	命懸けのダイエット	全3巻

### 寄 贈 図 書

本学の教職員等から、下記のとおり図書の寄贈がありました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

書 名	寄 贈 者
「CANCER RESEARCH」2005年～2009年 「朝鮮族のグローバルな移動と国際ネットワーク」 他 計4冊	野村 政明 (薬学部教授) 李 銅哲 (未来創造学部教授)
「賀川豊彦研究序説」 「中国古塔」他 計26冊	小南 浩一 (教育能力開発センター准教授) 佃 志津 (留学生別科准教授)
「神様のカルテ」他 計13冊	泉 洋成 (学事本部長)

### 編 集 後 記

世界が大きく変化し、グローバル化することにより、人々が国籍、民族、言語等の違いに直面し、学術のみならず実社会でも多様性が急速に増大しています。そんな中で、読書によって知識を獲得し、生きる知恵を身につけることは従来以上に重要性を増しています。今年は「国民読書年」です。読書が日常的に習慣化し、より身近なものになるよう、大いにライブラリーセンターを利用し、読書に励みましょう。

(柿 木)

### CONTENTS

	頁
○ 読書のすすめ .....	1
○ 利用学生の声 .....	2
○ 平成22年度学術資料委員紹介 .....	2
○ ライブラリーセンター本館に読書コーナー新設 .....	6
○ 読書コメント大賞表彰 .....	7
○ 卒業記念寄贈図書 .....	8
○ 寄贈図書 .....	8



北陸大学  
HOKURIKU UNIVERSITY

北陸大学ライブラリーセンター報  
NO.29

平成22年7月15日発行

編集・発行：北陸大学ライブラリーセンター  
〒920-1180 金沢市太陽が丘1-1  
TEL. 076-229-3021  
FAX 076-229-4850

ライブラリーセンターEメール：tlib@hokuriku-u.ac.jp  
北陸大学ホームページ：http://www.hokuriku-u.ac.jp/

印 刷：カンタ印刷株式会社